

5

障害児・者数の状況

1 全体状況

図表2 1 障害者数

		総 数	在 宅 者	施設入所者
身体障害児・者	18歳未満	9.8万人	9.3万人	0.5万人
	18歳以上	356.4万人	348.3万人	8.1万人
	合 計	366.3万人(29人)	357.6万人(28人)	8.7万人(1人)
知的障害児・者	18歳未満	12.5万人	11.7万人	0.8万人
	18歳以上	41.0万人	29.0万人	12.0万人
	年齢不詳	1.2万人	1.2万人	0.0万人
	合 計	54.7万人(4人)	41.9万人(3人)	12.8万人(1人)
精神障害者	20歳未満	16.4万人	16.1万人	0.3万人
	20歳以上	285.8万人	250.8万人	35.0万人
	年齢不詳	0.6万人	0.5万人	0.1万人
	合 計	302.8万人(24人)	267.5万人(21人)	35.3万人(3人)

注1：()内数字は、総人口1,000人あたりの人数(平成17年国勢調査人口による)。

注2：精神障害者の数は、ICD 10の「V精神及び行動の障害」から精神遅滞を除いた数に、てんかんとアルツハイマーの数を加えた患者数に対応しており、「患者調査」の外来患者を在宅者、入院患者を施設入所者とみなしている。

注3：身体障害児・者の施設入所者数には、高齢者関係施設入所者は含まれていない。

資料：「身体障害者」在宅者：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」(平成18年)

施設入所者：厚生労働省「社会福祉施設等調査」(平成18年)等

「知的障害者」在宅者：厚生労働省「知的障害児(者)基礎調査」(平成17年)

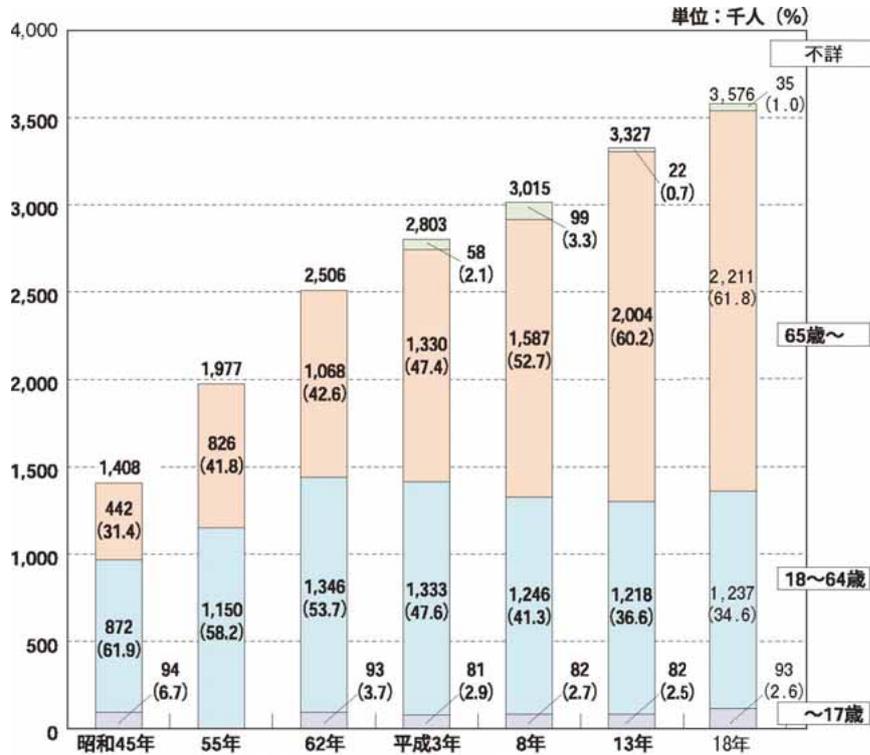
施設入所者：厚生労働省「社会福祉施設等調査」(平成17年)

「精神障害者」在宅者：厚生労働省「患者調査」(平成17年)より厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で作成

施設入所者：厚生労働省「患者調査」(平成17年)より厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で作成

2 年齢階層別の障害者数

図表2 2 年齢階層別障害者数の推移（身体障害者・在宅）



注：昭和55年は身体障害児（0~17歳）に係る調査を行っていない。

資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」

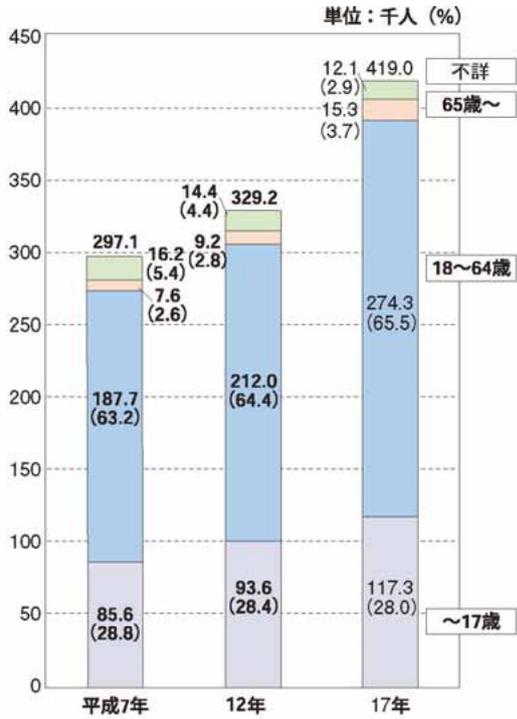
図表2 3 年齢階級別にみた身体障害者数（在宅）の人口比（対千人）

単位：人

0~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳~
3.2	4.4	4.1	6.1	11.6	24.4	48.9	58.3	94.9

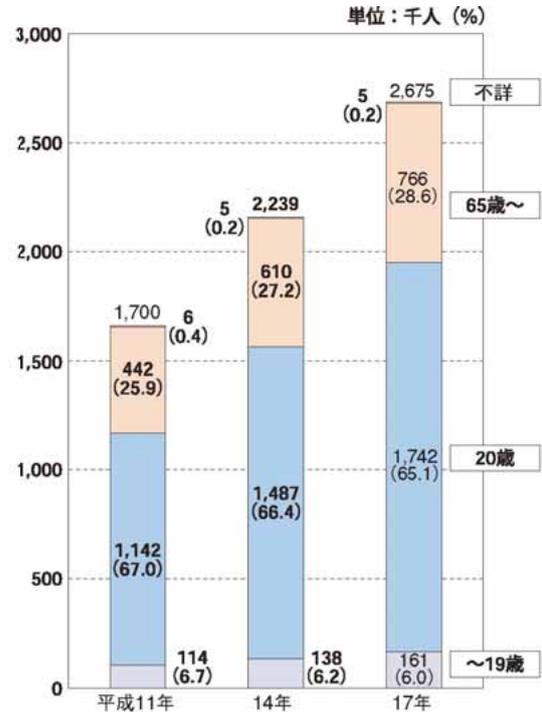
資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」（平成18年）

図表2 4 年齢階層別障害者数の推移(知的障害者・在宅)



資料：厚生労働省「知的障害児(者)基礎調査」

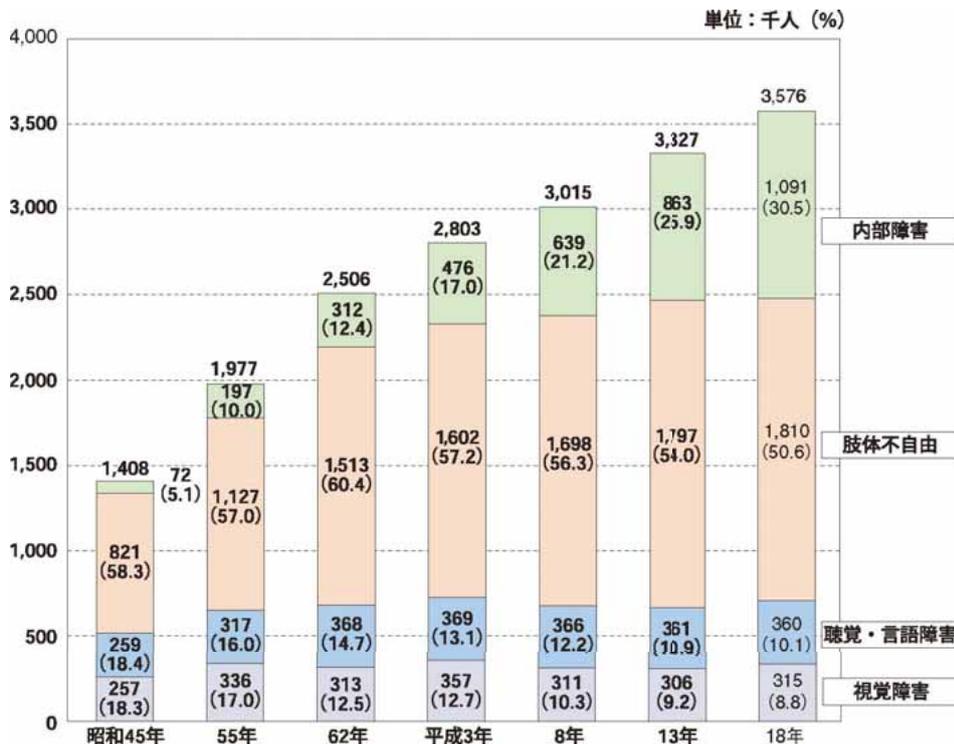
図表2 5 年齢階層別障害者数の推移(精神障害者・在宅)



注：「精神障害者・在宅」とは外来の精神疾患患者である
資料：厚生労働省「患者調査」より厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で作成

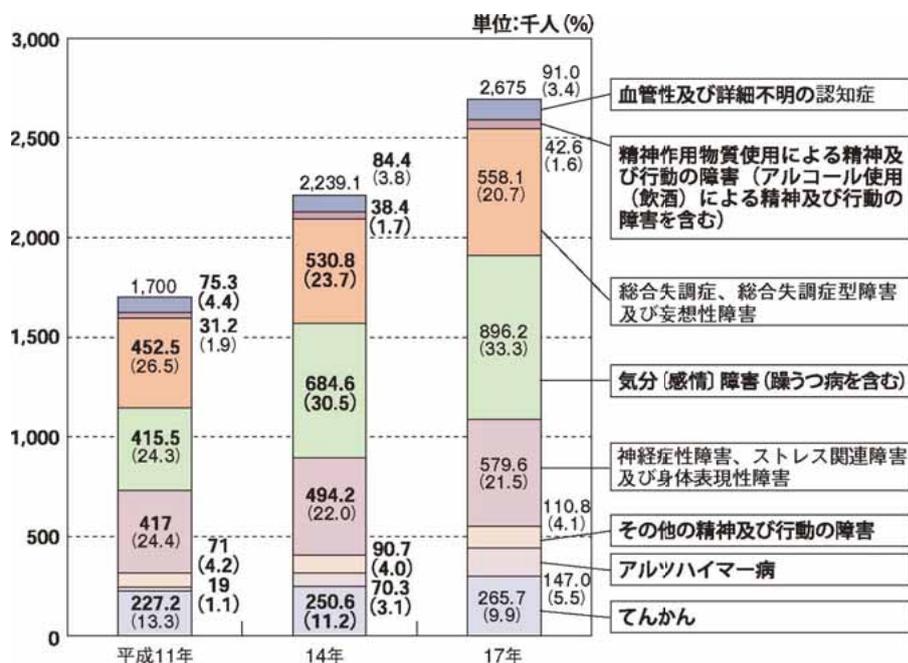
3 障害種別の障害者数

図表2 6 種類別障害者数の推移(身体障害者・在宅)



注：昭和55年は身体障害児(0~17歳)に係る調査を行っていない。
資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」

図表2 7 種類別障害者数の推移（精神障害者・在宅）

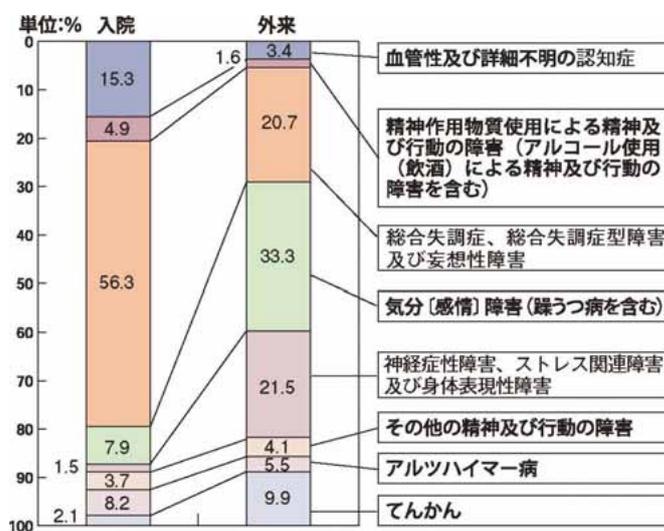


注1：疾患名については調査時点のものである

注2：「精神障害者・在宅」とは外来の精神疾患患者である

資料：厚生労働省「患者調査」より厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で作成

図表2 8 精神障害者の精神疾患の種別構成割合



資料：厚生労働省「患者調査」（平成17年）より厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で作成

図表2 9 障害の種類別・性別にみた身体障害児・者の状況

身体障害者（18歳以上）

単位：千人（％）

障害の種類	総数	性別		
		男	女	不詳
総数	3,483 (100.0)	1,869 (53.7)	1,562 (44.8)	51 (1.5)
視覚障害	310 (100.0)	144 (46.5)	162 (52.3)	4 (1.3)
聴覚・言語障害	343 (100.0)	169 (49.3)	165 (48.1)	9 (2.6)
聴覚障害	276 (100.0)	124 (44.9)	146 (52.9)	6 (2.2)
平衡機能障害	25 (100.0)	12 (48.0)	11 (44.0)	1 (4.0)
音声・言語・そしゃく機能障害	42 (100.0)	33 (78.6)	7 (16.7)	2 (4.8)
肢体不自由	1,760 (100.0)	899 (51.1)	835 (47.4)	25 (1.4)
上肢切断	82 (100.0)	65 (79.3)	15 (18.3)	2 (2.4)
上肢機能障害	444 (100.0)	261 (58.8)	181 (40.8)	3 (0.7)
下肢切断	60 (100.0)	42 (70.0)	17 (28.3)	1 (1.7)
下肢機能障害	627 (100.0)	275 (43.9)	343 (54.7)	8 (1.3)
体幹機能障害	153 (100.0)	87 (56.9)	64 (41.8)	2 (1.3)
脳原性全身性運動機能障害	58 (100.0)	33 (56.9)	25 (43.1)	- (-)
全身性運動機能障害（多肢及び体幹）	337 (100.0)	137 (40.7)	190 (56.4)	9 (2.7)
内部障害	1,070 (100.0)	657 (61.4)	400 (37.4)	13 (1.2)
心臓機能障害	595 (100.0)	354 (59.5)	234 (39.3)	7 (1.2)
呼吸器機能障害	97 (100.0)	69 (71.1)	28 (28.9)	1 (1.0)
じん臓機能障害	234 (100.0)	145 (62.0)	87 (37.2)	3 (1.3)
ぼうこう・直腸機能障害	135 (100.0)	83 (61.5)	49 (36.3)	2 (1.5)
小腸機能障害	8 (100.0)	7 (87.5)	2 (25.0)	- (-)
ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害	1 (100.0)	- (-)	1 (100.0)	- (-)
重複障害（再掲）	310 (100.0)	195 (62.9)	109 (35.2)	5 (1.6)

身体障害児（18歳未満）

単位：千人（％）

障害の種類	総数	性別		
		男	女	不詳
総数	93,100 (100.0)	49,500 (53.2)	43,600 (46.8)	- (-)
視覚障害	4,900 (100.0)	2,200 (44.9)	2,800 (57.1)	- (-)
聴覚・言語障害	17,300 (100.0)	9,000 (52.0)	8,400 (48.6)	- (-)
聴覚障害	15,800 (100.0)	8,000 (50.6)	7,700 (48.7)	- (-)
平衡機能障害	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
音声・言語・そしゃく機能障害	1,500 (100.0)	900 (60.0)	600 (40.0)	- (-)
肢体不自由	50,100 (100.0)	28,800 (57.5)	21,300 (42.5)	- (-)
上肢切断	300 (100.0)	- (-)	300 (100.0)	- (-)
上肢機能障害	11,800 (100.0)	8,000 (67.8)	3,700 (31.4)	- (-)
下肢切断	900 (100.0)	300 (33.3)	600 (66.7)	- (-)
下肢機能障害	7,100 (100.0)	4,000 (56.3)	3,100 (43.7)	- (-)
体幹機能障害	8,400 (100.0)	3,700 (44.0)	4,600 (54.8)	- (-)
脳原性全身性運動機能障害	11,400 (100.0)	7,400 (64.9)	4,000 (35.1)	- (-)
全身性運動機能障害（多肢及び体幹）	10,200 (100.0)	5,300 (52.0)	4,900 (48.0)	- (-)
内部障害	20,700 (100.0)	9,600 (46.4)	11,100 (53.6)	- (-)
心臓機能障害	15,200 (100.0)	7,400 (48.7)	7,700 (50.7)	- (-)
呼吸器機能障害	1,900 (100.0)	900 (47.4)	900 (47.4)	- (-)
じん臓機能障害	1,500 (100.0)	900 (60.0)	600 (40.0)	- (-)
ぼうこう・直腸機能障害	1,200 (100.0)	- (-)	1,200 (100.0)	- (-)
小腸機能障害	600 (100.0)	300 (50.0)	300 (50.0)	- (-)
ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害	300 (100.0)	- (-)	300 (100.0)	- (-)
重複障害（再掲）	15,200 (100.0)	8,700 (57.2)	6,500 (42.8)	- (-)

(注) () 内は構成比 資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」(平成18年)

図表2 10 障害の種類別・障害の原因別にみた身体障害児・者数

身体障害者（18歳以上）

単位：千人（％）

	総数	事 故					疾 病					出生時の損傷	加齢	その他	不明	不詳
		交通事故	労働災害	その他の事故	戦傷病 戦災	小計	感染症	中毒性 疾患	その他 の疾患	小計						
総数	3,483 (100.0)	106 (3.0)	113 (3.2)	100 (2.9)	21 (0.6)	341 (9.8)	58 (1.7)	8 (0.2)	656 (18.8)	722 (20.7)	79 (2.3)	166 (4.8)	356 (10.2)	446 (12.8)	1372 (39.4)	
視覚障害	310 (100.0)	11 (3.5)	2 (0.6)	8 (2.6)	3 (1.0)	25 (8.1)	4 (1.3)	1 (0.3)	56 (18.1)	61 (19.7)	14 (4.5)	7 (2.0)	41 (13.2)	58 (18.7)	105 (33.9)	
言語障害・ 聴覚・	343 (100.0)	6 (1.7)	3 (0.9)	6 (1.7)	2 (0.6)	17 (5.0)	3 (0.9)	- (-)	47 (13.7)	51 (14.9)	7 (2.0)	29 (8.5)	29 (8.5)	51 (15.0)	160 (46.7)	
不自由 肢体	1,700 (100.0)	89 (5.1)	96 (5.5)	86 (4.9)	14 (0.8)	284 (16.1)	36 (2.0)	2 (0.1)	356 (20.2)	394 (22.4)	53 (3.0)	70 (4.0)	145 (8.2)	163 (9.3)	651 (37.0)	
内部障害	1,070 (100.0)	1 (0.1)	11 (1.0)	1 (0.1)	2 (0.2)	15 (1.4)	15 (1.4)	6 (0.6)	196 (18.3)	216 (20.2)	6 (0.6)	10 (5.6)	142 (13.3)	174 (16.3)	457 (42.7)	

身体障害児（18歳未満）

単位：人（％）

	総数	事 故			疾 病				出生時の損傷	その他	不明	不詳
		交通事故	その他の事故	小計	感染症	中毒性 疾患	その他 の疾患	小計				
総数	93,100 (100.0)	1,200 (1.3)	1,500 (1.6)	2,700 (2.9)	1,500 (1.6)	300 (0.3)	7,400 (7.9)	9,200 (9.9)	17,900 (19.2)	16,700 (17.9)	32,200 (34.6)	14,200 (15.3)
視覚障害	4,900 (100.0)	- (-)	- (-)	- (-)	300 (6.1)	- (-)	300 (6.1)	600 (12.2)	606 (12.2)	1,200 (24.5)	1,500 (30.6)	900 (18.4)
言語障害・ 聴覚・	17,300 (100.0)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	600 (3.5)	600 (3.5)	1,500 (8.7)	900 (5.2)	9,600 (55.5)	4,600 (26.6)
不自由 肢体	50,100 (100.0)	1,200 (2.4)	1,500 (3.0)	2,700 (5.4)	900 (1.8)	- (-)	4,900 (9.8)	5,800 (11.6)	14,200 (28.3)	10,200 (20.4)	11,800 (23.6)	5,300 (10.6)
内部障害	20,700 (100.0)	- (-)	- (-)	- (-)	300 (1.4)	300 (1.4)	1,500 (7.2)	2,100 (10.1)	1,500 (7.2)	4,300 (20.8)	9,300 (44.9)	3,400 (16.4)

(注)()内は構成比 資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」(平成18年)

図表2 11 障害の疾患別にみた身体障害児・者数

身体障害者（18歳以上）

単位：千人（％）

総数	脳性マヒ	脊髄性小児マヒ	脊髄損傷（対マヒ）	脊髄損傷（四肢マヒ）	進行性筋萎縮性疾患	脳血管障害	脳挫傷	その他の脳神経疾患	骨関節疾患	リウマチ性疾患	中耳性疾患	内耳性疾患
3,483 (100.0)	54 (1.6)	43 (1.2)	33 (1.0)	24 (0.7)	21 (0.8)	273 (7.8)	11 (0.3)	73 (2.1)	238 (6.8)	97 (2.8)	32 (0.9)	45 (1.3)

角膜疾患	水晶体疾患	網脈絡膜・視神経系疾患	じん臓疾患	心臓疾患	呼吸器疾患	ぼうこう疾患	大腸疾患	小腸疾患	後天性免疫不全症候群	その他	不明	不詳
19 (0.5)	11 (0.3)	84 (2.4)	163 (4.7)	350 (10.0)	56 (1.6)	20 (0.6)	51 (1.5)	4 (0.1)	2 (0.1)	286 (8.2)	78 (2.2)	1,414 (40.6)

身体障害児（18歳未満）

単位：人（％）

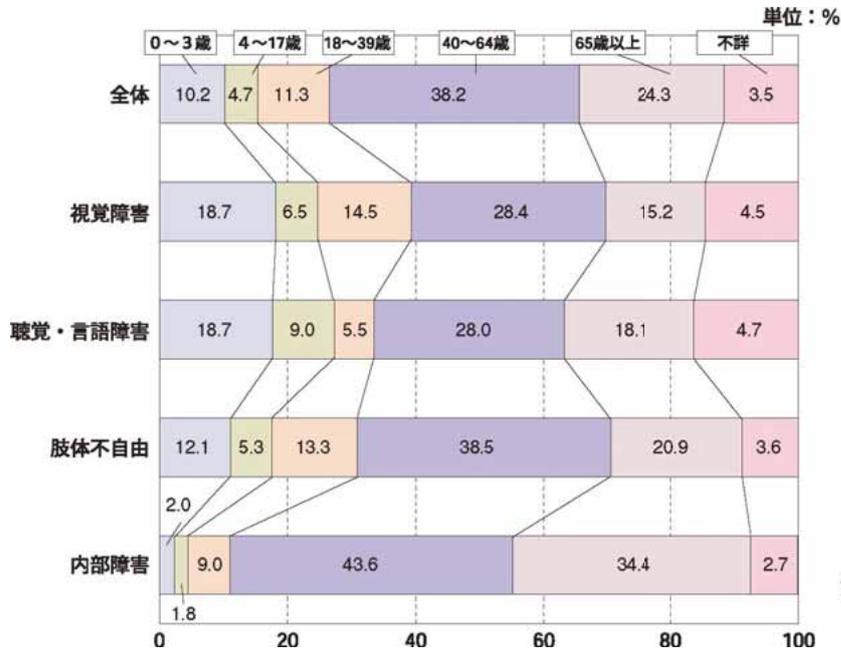
総数	脳性マヒ	脊髄性小児マヒ	脊髄損傷（対マヒ）	脊髄損傷（四肢マヒ）	進行性筋萎縮性疾患	脳血管障害	脳挫傷	その他の脳神経疾患	骨関節疾患	中耳性疾患	内耳性疾患	角膜疾患
93,100 (100.0)	24,100 (25.9)	300 (0.3)	900 (1.0)	600 (0.6)	1,500 (1.6)	900 (1.0)	300 (0.3)	3,700 (4.0)	600 (0.6)	300 (0.3)	3,700 (4.0)	300 (0.3)

水晶体疾患	網脈絡膜・視神経系疾患	じん臓疾患	心臓疾患	呼吸器疾患	ぼうこう疾患	大腸疾患	小腸疾患	後天性免疫不全症候群	その他	不明	不詳
- (-)	1,900 (2.0)	1,200 (1.3)	12,400 (13.3)	300 (0.3)	- (-)	300 (0.3)	300 (0.3)	- (-)	16,400 (17.6)	4,600 (5.0)	18,200 (19.5)

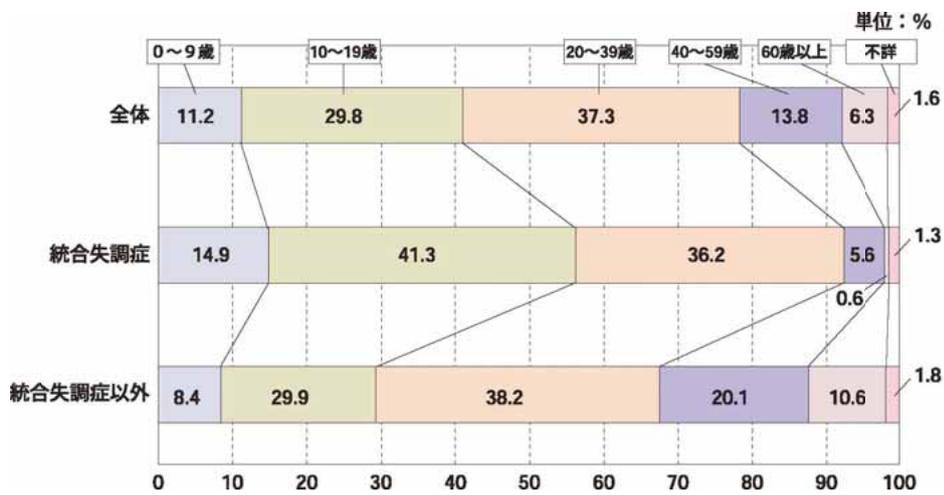
（注）（ ）内は構成比 資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」（平成18年）

4 障害の発生年齢及び原因

図表2 12 障害発生時の年齢階級（身体障害者・在宅）

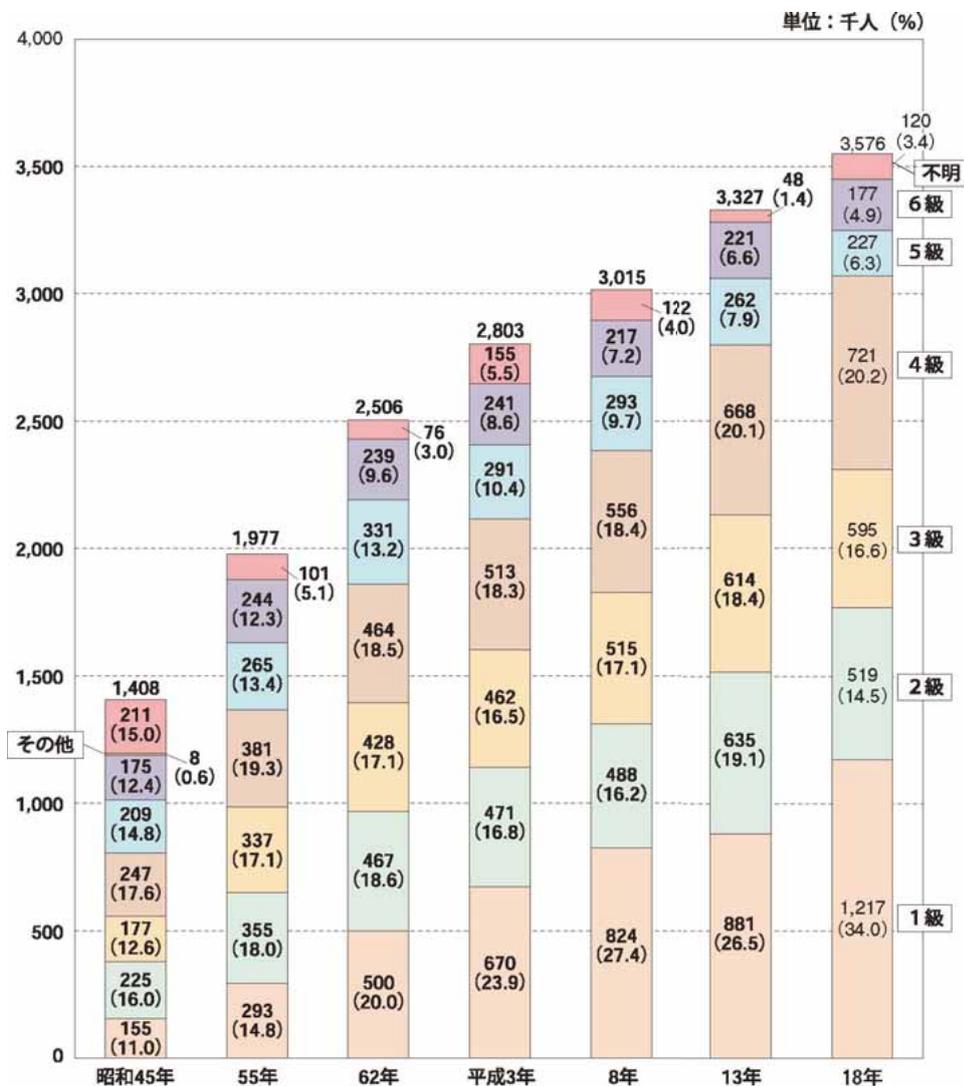


図表2 13 障害発生時の年齢階級（精神障害者・在宅）



5 障害の重度・重複化

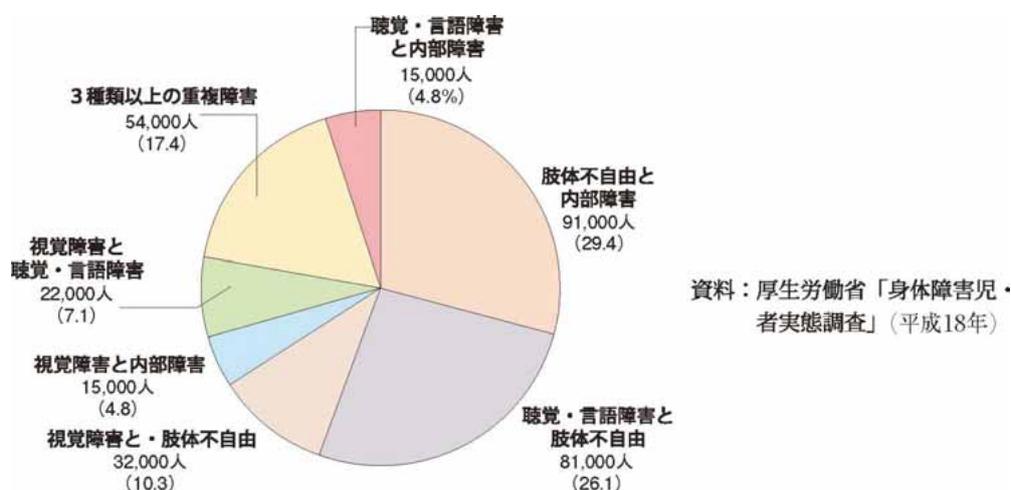
図表2 14 程度別障害者数の推移（身体障害児・者・在宅）



注：昭和55年は身体障害児（0～17歳）に係る調査を行っていない。

資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」

図表2 15 障害の重複状況（身体障害者・在宅）



図表2 16 障害の重複状況（知的障害者・在宅）（複数回答）

単位：%

視覚障害	聴覚または平衡機能の障害	音声機能、言語機能または、そしゃく機能の障害	肢体不自由	内部障害
16.3	10.7	17.7	68.5	13.2

資料：厚生労働省「知的障害児（者）基礎調査」（平成17年）

図表2 17 障害の程度別にみた知的障害児・者数（在宅）

単位：人（%）

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不詳
総数	419,000 (100.0)	62,400 (14.9)	102,200 (24.4)	106,700 (25.5)	97,500 (23.3)	50,100 (12.0)
知的障害児 (18歳未満)	117,300 (100.0)	22,000 (18.8)	28,100 (23.9)	26,200 (22.4)	33,300 (28.4)	7,700 (6.5)
知的障害者 (18歳以上)	289,600 (100.0)	39,800 (13.7)	73,700 (25.5)	78,700 (27.2)	63,000 (21.8)	34,300 (11.9)
不詳	12,100 (100.0)	600 (5.0)	400 (3.3)	1,800 (15.0)	1,200 (10.0)	8,100 (66.7)

（注）（ ）内は構成比 資料：厚生労働省「知的障害児（者）基礎調査」（平成17年）

図表2 18 在宅知的障害児・者の療育手帳の所有状況

単位：%

	手帳有	手帳無	不詳
総数	91.0	5.8	3.2
知的障害児(18歳未満)	91.2	8.8	-
知的障害者(18歳以上)	93.4	4.4	2.2
不詳	31.7	11.7	56.7

資料：厚生労働省「知的障害児（者）基礎調査」（平成17年）

図表2 19 精神障害者保健福祉手帳の交付者数

単位：人

総数	1級	2級	3級
404,883	73,810	248,102	82,971

注：年度未交付者数から有効期限切れのものを除いた数

資料：厚生労働省「保健・衛生業務報告（衛生行政報告例）」（平成19年3月末現在）

障害児・者の状況及び障害者施策の状況に関する資料については内閣府ホームページに掲載されています。

<http://www8.cao.go.jp/shougai/data/h18.html>